

今回の発掘調査で見つかった出土品の品々

キリスト教関連遺物

大友宗麟は、天文20年（1551）に宣教師フランシスコ・ザビエルと出会い、その後キリスト教を熱心に保護します。府内の町には、教会が建てられ、豊後各地に信者が増えていきました。府内の町の発掘調査によって、これまでメダイやコンタといったキリスト教信者が使用していた信心具が見つかっています。

【コンタ】

コンタはキリシタンが祈祷する際、祈りの回数を爪繰り数えるのに使われる信心具です。

過去の調査において、発掘調査でガラス製のものが見つかっており、特に花弁状大型コンタは鉛ガラス製で、鉛の同位体比分析から中国華南産の材料が使用されたと考えられます。



唐人町の人々

大友館北東隅より北側に比定される町で、外国人が居住していたことが想定されています。これまでの発掘調査にて、貿易陶磁器やガラス製品などがみつかっています。

【骨牌（こっぱい）】

中国人が所有していたとみられる明代の玩具である骨牌といった希少な遺物も出土しています。骨牌は象牙などでつくったカルタ状の遺物で、麻雀牌の祖形ともいわれる中国（明）で流行していた玩具です。

